

記念式典

創業100周年記念式典開催  
2000名を超える人々で祝う

浜松で長く活躍する建材流通の株式会社ナカムラ（中村善太代表取締役社長）では、8月24日オークラアクトシティホテル浜松で創業100年・設立70年記念式典を開催した。取引先、資材メーカー、関連団体など2000名を超える人々が集まり、同社の創業100周年

を祝った。



式典は午後5時から始まり、まず中村社長が同社の100年の歩みと取引先などに対し感謝の言葉を述べた。来賓では3氏が祝辞を述べた。浜松木材協同組合理事長・株サンコーホーム代表取締役社長（株）加藤俊二氏は「次のステップは新社長だから前途洋々、全国にないユニークな会社にしてほしい」、大建工業（株）代表取締役社長の億田正則氏は「さざれ石のごとく集まり一つの巖（いわ）となって会社を続けていただきたい」、伊藤忠建材（株）代表取締役の柴田敏晶氏は「時代環境に即応し生き残ってきた。おめでとございます」と、それぞれ祝辞を述べた。その後第二部として行われた落語会では、同社と親交のある真打ち六代目の春風亭柳朝師匠が登場、式典を大いに盛り上げた。最後に懇親パーティーが開催され、吉野石膏（株）の須藤永作

社長が乾杯を行った。

同社は大正7年初代中村松次氏により浜松市板屋で製材業でスタート。昭和20年浜松空襲で事務所、製材工場、倉庫が壊滅。昭和23年戦災から立ち直り株式会社中村材木店を設立した。その後昭和30年代に合板・新建材の取扱いを開始し、有力メーカーの代理店として社業を発展させた。昭和45年に商号を株式会社ナカムラに変更し現在に至っている。

式典で挨拶した中村社長は創業100年に当たり次のように述べた。

「建材部を設置したのが昭和34年で、ここから建材流通の弊社が始まりました。高度経済成長期で経済の拡大と共に車社会が進んだ時代でもあり、クルマが物流の主流になり、そのために出来たのが現在の会社のある物流団地です。今から約50年前のことでした。

物流が未発達の間、まだ住宅が不足していた時代は、製造元の製品を倉庫にストックし、販売店様にお届けすることがエリアにおける流通業の役割だったと思います。

トラック物流が高度に発達した

現在は、かつてのストック機能はもはや必要とされておりません。ただし住宅建築では、住宅を建てるその場所に資材がほしいというのは昔から変わりません。この数年は運送業を中心として、運転手不足が著しく、5年前と同じコストでそれを維持できるかというところ、中々できない状況も生まれつつあります。こうした条件下で、現場ごとに配送機能を如何に維持して行くか、向上させていくか、かつ安全に、事故なくお届けできるかは、私共の大きな使命の一つであります。併せて人手不足が甚だしく、現場で働く職人さんが不足している中で、何をご提供できるかが問われていると考えています。

私自身は3年前に社長職に就いたばかりです。これから100年など想像もつきません。目先の仕事に無我夢中です。人手不足、そして新築着工戸数の減少。決して楽観できない現在の条件下で、ご来臨の皆様のご指導、ご鞭撻を賜りながら、お客様のため、社員のため、そして地域のために微力ながらまい進して参ります」

（取材 福原）